

第三次 新田地域づくり計画

～みんなで考え住みよい新田を創ろう！！～

計画期間 令和6年度～令和10年度



令和6年(2024年)3月
新田地区コミュニティ推進協議会

～ 目 次 ～

はじめに

第1章 計画策定の背景

- 1 地域づくりを推進する目的
- 2 地域の現状
- 3 地域づくり計画の期間

第2章 地域の課題

- 1 アンケート調査から
 - (1) アンケート調査の実施
 - (2) アンケート調査の結果について
 - (3) 重点的に取り組むべきテーマ
 - (4) アンケートに寄せられた自由記載の一部
- 2 第二次計画実施状況から
 - (1) 第二次計画のあらまし *5～6ページ図1を参照
 - (2) 第二次計画の取り組み状況
 - (3) 第二次計画に取り組んでの成果と課題

第3章 第三次計画の基本方針

- 1 スローガン
- 2 計画目標
- 3 計画期間
- 4 基本的方策
 - (1) 基本テーマ
 - (2) 事業の進め方

資料編

- 資料1 策定委員名簿
- 資料2 計画策定経過

～ はじめに ～



新田地区コミュニティ推進協議会として、登米市まちづくり基本条例により、市民一人一人が参画できる協働の町作りをすすめております。

平成26年度より5年間を「第一次地域づくり計画」として、当地域の特性を生かした地域づくりに努力してまいりました。しかしながら、「第二次地域づくり計画」では、予想もしないコロナ感染症の影響で活動が出来なかったこともあり、令和6年度から始まる「第三次地域づくり計画」に市民皆さんの理解と参画をお願い致し勧めてまいりますので、今後共宜しくお願い致します。

新田地区コミュニティ推進協会
会長 石川 法夫



登米市まちづくり基本条例に基づき新田地区でも平成25年から策定委員会を立ち上げ、26年4月から計画の期間を10年後の未来像を基に、5年間と定め活動を実施。31年3月で5年計画が終了、令和元年～5年までの二次計画も終了し、今回第三次地域づくり計画の策定となりました。

今回の策定は策定委員をコミュニティ役員と新田地区各層からも委員を選出し、第三次策定委員会を立ち上げ、三次の委員会を7月にスタートいたしました。

第三次の策定にあたり二次計画（事業）の成果や継続事業の確認、更に令和2年に実施した新田地区全世帯を対象にしたアンケート調査結果の分析から、第三次計画の基本方針を確認し、ともに『そだつ』安全に『いきる』快適に『くらす』を基本に第三次新田地域づくり計画を策定いたしました。

今回の企画で子ども達の居場所事業（新田寺子屋）や高齢者見回り活動などは関係機関との調整が必要な条件もありますが、その他の事業につきましてはアンケート結果にもある、住み続けたい愛着ある新田の地域づくりのため頑張る所存です。

地域づくり計画策定委員会
委員長 及川 宣和

第1章 計画策定の背景

1 地域づくりを推進する目的

登米市では平成24年4月に「登米市まちづくり基本条例」を制定し、市民一人ひとりの参画を図りながら協働の取組みを進めています。

新田地区コミュニティ推進協議会では、平成25年に策定し翌年平成26年度より5年間を「第一次地域づくり計画」として、資源や特徴を生かしながら地域の問題に取り組んで決しました。

地域をつくるのは地域に住んでいる人々です。わかりやすい目標を持って、令和6年度より第三次新田地域づくり計画を実施していきたいと考えております。

2 地域の現状

新田地区はJR東北本線が通っており、新田駅・梅ヶ沢駅の二つの駅がある。国内で2番目のラムサール条約登録湿地になった伊豆沼と内沼や長沼（長沼ダム）に挟まれ細長い特徴的な形をしている地域です。

産業は、農業が基幹産業ですが就労人口が減少するとともに、就労者の高齢化が進み担い手が少ない状況となっています。

新田地区の令和5年4月現在の世帯数1,032戸で人口は3,111人となっており、令和元年と比較し世帯数は24世帯減少し、人口は278人が少なくなっております。

地域の特徴としては、「柳生心眼流兵法」「山ノ神神楽」「佐沼鹿踊り」などがあり、近年では「白蓮太鼓」も新田の芸能として一緒に活動しています。

3 地域づくり計画の期間

この計画の期間は、令和6年度から令和10年度までの5年間とし必要に応じて見直しを行うこととします。

表1
新田地区の行政区別人口・世帯数の推則(各年4月1日現在)
＊情報提供:登米市役所

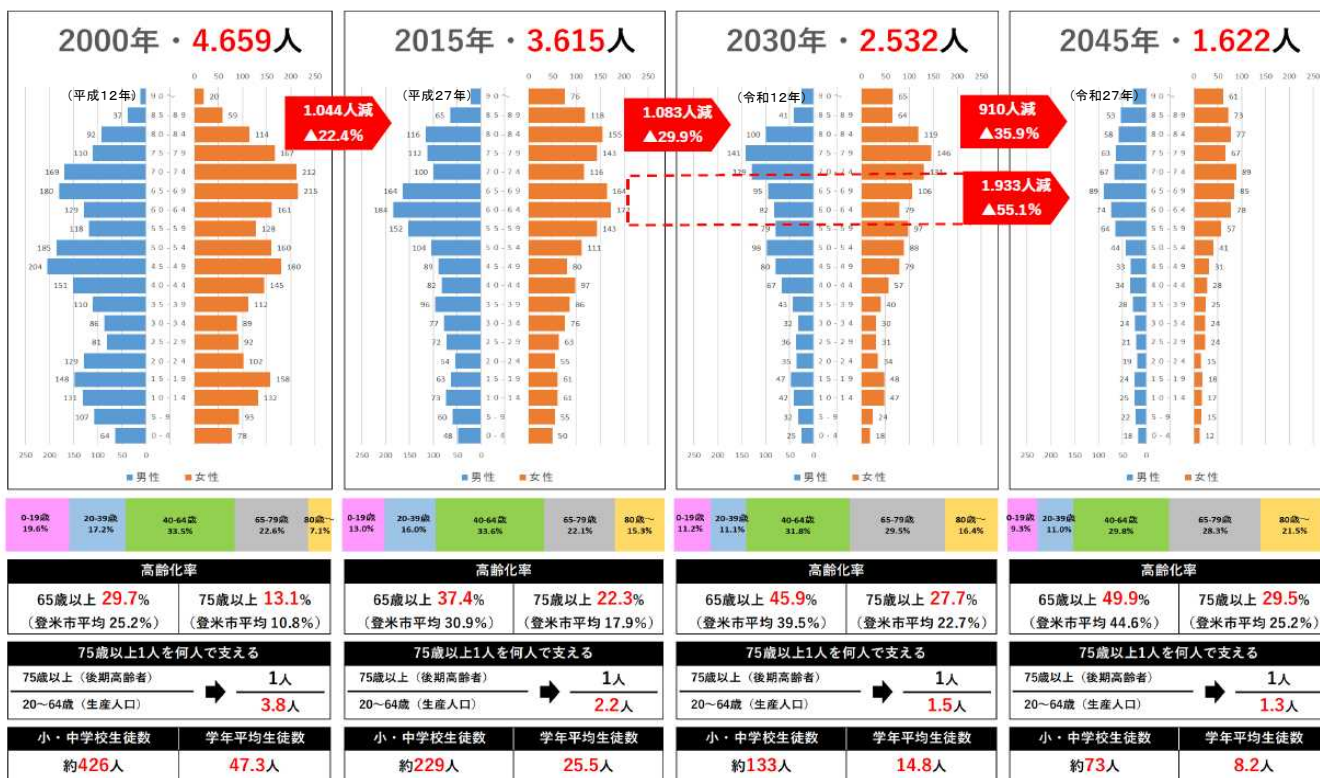
		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
坂戸	世帯	94	95	92	92	91
	人口	300	290	279	279	280
新田駅前	世帯	164	162	157	158	153
	人口	384	380	363	363	350
倉崎	世帯	53	51	51	51	51
	人口	185	182	178	170	164
山ノ神	世帯	56	55	57	57	56
	人口	209	198	196	191	187
大形	世帯	60	60	60	60	59
	人口	215	215	214	211	203
小友	世帯	110	108	110	112	112
	人口	355	337	335	342	331
茂栗	世帯	83	82	79	78	80
	人口	254	244	230	226	222

		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
品の浦	世帯	84	84	84	84	83
	人口	309	307	301	301	290
菱ノ倉	世帯	33	33	33	33	34
	人口	101	101	97	97	100
大浦	世帯	69	69	71	70	70
	人口	243	236	235	227	221
板橋	世帯	108	108	110	102	103
	人口	315	304	300	287	284
駒林	世帯	76	76	75	74	73
	人口	253	250	242	236	228
立戸	世帯	66	67	67	67	67
	人口	266	270	264	258	251
計	世帯	1,056	1,050	1,046	1,038	1,032
	人口	3,389	3,314	3,234	3,188	3,111

図1
新田地区 人口の推移&予測 2000年から2024年の人口構成の変化
* 情報提供:とめ市民活動プラザ

迫町町新田地区 人口の推移&予測

これまでの15年と、これからの15年,30年は違ってきます！
人口減少は避けられない現実・・・
地域に大きな影響を及ぼすのは**人口構成の変化**！



【データ】2000年・2015年は国勢調査値 2030年・2045年はIHOE【人と組織と地球のための国際研究所】の推計による ※過去の新田地区人口推移平均値を基準

作成：とめ市民活動プラザ

新田地区 これまで20年間の人口推移とこれから20年間の予測値

	国勢調査値					予測値				
新田地区	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	
人口計	4,659	4,321	3,885	3,616	3,260	2,849	2,485	2,157	1,860	
0～19歳	911	722	536	471	424	357	304	256	234	
20～39歳	801	750	676	579	433	328	259	223	204	
40～64歳	1,561	1,485	1,381	1,214	1,023	872	764	676	558	
65歳以上	1,386	1,364	1,290	1,351	1,371	1,292	1,159	1,002	864	
高齢化率	29.7%	31.6%	33.2%	37.4%	42.1%	45.3%	46.6%	46.4%	46.5%	
65～79歳	1,053	969	816	799	848	874	744	564	449	
80歳以上	333	395	474	552	523	418	415	438	415	

予測値の計算式参照：IHOE【人と組織と地球のための国際研究所】

図2

新田地区
20年間の人口推移と
これから20年間の予測値

新田地区 これまで20年間の世帯構成の推移とこれから20年間の予測値

	国勢調査値					予測値				
新田地区	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	
一般世帯数	1,049	1,090	1,019	1,039	1,066	978	890	792	695	
18歳未満同居世帯	422	357	274	232	211	170	141	116	104	
構成比	40.2%	32.8%	26.9%	22.3%	20.0%	17.4%	15.9%	14.7%	15.0%	
3世帯同居世帯	539	504	411	329	262	205	162	132	108	
構成比	51.4%	46.2%	40.3%	31.7%	24.8%	20.9%	18.2%	16.6%	15.5%	
65歳以上単独世帯	48	76	62	61	130	138	141	129	116	
65歳以上夫婦世帯	72	82	71	111	134	140	133	119	105	
65歳以上世帯計	120	158	133	172	264	278	274	248	221	
構成比	11.4%	14.5%	13.1%	16.6%	25.0%	28.4%	30.8%	31.4%	31.9%	
単独世帯(全世代)	89	126	115	121	191	193	194	180	163	
構成比	8.5%	11.6%	11.3%	11.6%	18.1%	19.8%	21.8%	22.8%	23.5%	
一世帯当たり人数	4.23	3.89	3.69	3.40	3.09	2.94	2.82	2.75	2.71	

予測値の計算式参照：IHOE【人と組織と地球のための国際研究所】

図3

新田地区
20年間の世帯構成の推移と
これから20年間の予測値

図1

第二次新田地域づくり計画

新田地域づくり計画

～みんなで考え住みよい新田を創ろう!!～

平成25年度3月 作成
平成30年度3月 見直し

事業計画

課題 (テーマ)	基本的方向 (キーワード)	見直結果	計画内容	具体的な取り組みと課題
コミュニティ の充実	地域の安全	継 続	危険箇所・避難箇所マップ作成	事故防止対策の実施、行政区に2枚配布（センター・区長）
			各箇所に判りやすく印を付ける	問題が解消した箇所等について、年に1回の見直しを行う。
		△ 改 善	地域安全パトロールの実施	防犯協会は奇数月・交通安全協会は偶数月 のようにパトロール計画を立て実行する
		△ 改 善	地域活動による環境整備	除草作業
	生涯学習の充実	継 続	学校との連携により体育祭・芸能祭・地域行事の実施	子ども会育成会・小・中学校との連携
			コミュニティスクールの推進	学校運営協議会の定例会議に参加をし情報交換。
		※ 新 規	新田の神社仏閣調査実行委員を立ち上げと現地調査を実施	新田にある神社仏閣史跡を調査しマップの作成を行い、愛好会等の 発足も考慮
		※ 新 規	新田の名人発掘とそのまとめ	各行政区にて手に技を持っている方を見つけ、書き出す。
		継 続	古き良き伝統芸能の継承とPR	山ノ神神楽、柳生心眼流、鹿踊の活躍の場を設ける。
		継 続	各種団体への活動支援。	新田地区長生会連合会・新田婦人会
		継 続	地域の人との交流を深める	各イベントの開催
魅力ある 新田のPR	新田ブランドの確立	継 続	玉葱栽培、もち米供給等の拡大	先進的取り組み（山ノ神・茂栗）
		△ 改 善	美味しい”新田のはっと”のPR	新田婦人会
	植栽等推進活動	継 続	スマイルサポーター（坂戸フラワー街道倶楽部）	交通量がある箇所に、花が植えてあり季節になると満開の花が目に入る。
			水仙ロード（茂栗保全隊） 花いっぱい運動	
ふるさと の再生	ゴミのない地域	△ 改 善	ポイ捨て禁止の看板設置（鳥居）	全行政区に設置。その後の対応を検討
	新田地区で伝わってきた 古き良き行事の継承	△ 改 善	夏祭りの復活・盆踊り・秋祭り（各地区の取組）	

見直し結果

行動計画の状況確認	「新田地域づくり計画」を元にした事業について検討し、基本方針：13項目・活動案：45項目。 45項目中取り組みができているものが8項目であり、内容の確認を行なうことが出来た。
評価と整理	行動計画内容について、地域づくり部会役員・行政区長に協力を頂き5段階評価を行った。 評価結果を元に議論を行い、内容の整理を行なうことができた。 削除出来る内容は削除し、コミュニティで出来る出来ないの判断や同じ内容については統一を図った。
見直した結果からの目標	計画当初の行動計画内容にコミュニティだけでは、困難で実行できずにいた内容が多くあり、見直しとまとめることで、自分達で目標を立て事業を組み立てられるようになった。



【新田地区コミュニティ推進協議会 会長 星 昭男】

私達の登米市がまちづくりの発展を願って、平成24年4月に「登米市まちづくり基本条例」を制定しました。平成25年度より「地域づくり計画」の話を受け、どのような地域をつくれば良いのか検討がつきませんでした。しかも「地域づくり計画」の策定期間は2年間であるとのことでしたので、特定非営利活動法人まちづくり政策フォーラム 足立千佳子先生の指導の下、役員で試行錯誤をしながら計画を作り上げました。

現在は、新田地区コミュニティ推進協議会で集落支援員を任用し、活動をして地域の方々に喜んでいただいております。平成30年度は安心・安全な地域を作るため、新たに新田地区の大きな地図を作り危険な箇所はどこか、またどのような策を立てたら安全な生活が出来るかを話し合いました。平成31年度は実際の現場を視察し役員と話し合いを重ね、住みよい魅力のあるすばらしい地域づくりをしようと思ひ頑張っているところです。



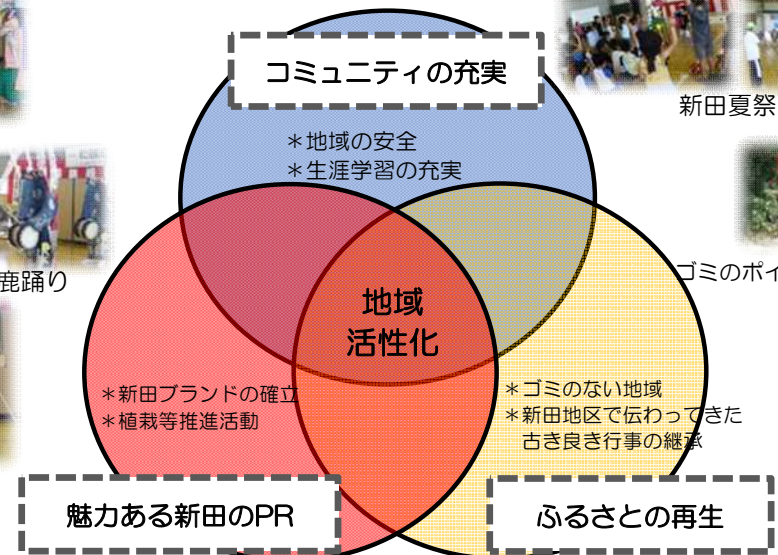
山ノ神神楽



佐沼鹿踊り



柳生心眼流兵法



新田夏祭り



ゴミのポイ捨て禁止看板

【地域づくり部会長 星 栄一】

当初の策定時には、地域の良いところを出し合って行動計画を作りましたが、あれから5年を過ぎ見直す時期が来ました。31年度から、新たに地域に合った計画を進めるために、30年度は計画の見直しを行い、内容の整理を行いました。

今後は、見直した結果を基に、地域の資源を生かした魅力ある地域づくりに取り組んでいきたいと思ひます。

【登米市新田公民館 館長 大場 勘市】

地域づくりでは昔懐かしい伝統的なお祭りや遊びの復活や生活上の不具合の解消など多くの施策が考えられました。

自分達で達成できるものと行政へ依頼するものとに分類し、案件に着手している。

平成30年度は、自分達が住んでいる地域を確認できるように地図の作成から始まりました。

また、住民は地域の良さは分かっているが、価値を良くわからないのが現状である。失いつつある匠の技や伝統芸能、食と文化の継承について、これから調査を順次進めていき、最終的には冊子に残していきたい。

これからの地域づくりは良い所だけを発信して旅行者として人を呼ぶだけではなく、興味を持って来る滞在型も考えていかなければならないと思ひます。



第2章 地域の課題

1、アンケート調査から

(1) アンケート調査の実施

新田地区で暮らしている中で、地域住民がどのような「不安」「悩み」「要望」があるか把握するとともに、それらの問題を解決のために検討し実行に移す組織づくりを目的としているため、令和2年度にアンケート調査を実施しました。

実施時期 令和2年10月

対象者 新田地区在住の15才以上

回収状況 配布数1,034件 回収数534件 回収率51.6%

(2) アンケート調査の結果から

■ 近所付き合いと他の地域との交流の必要性

- ・それぞれの家庭での生活が第一で、他の家庭まで関わりたくないと思っているかもしれません。昔のようなお茶のみ話がなくなったのは、若い世代が家庭の情報が漏れてしまう事を嫌う傾向にあるのも一因となっている。

* 地域全体が共助社会になるには、情報のルール作りが求められる

■ 新田地区に住み続けたい・愛着があるか

- ・住み続けたい63%、愛着がある62%

この結果から見たことは、長く住み続けてもらうためには、地域に愛着を持ってもらうこと。60代の回答が半数を占めており、長く暮すことで愛着がよりいっそう増す。

しかし、若い世代は、興味があるか便利さを考え不便を感じてしまうと離れてしまう。

そのため、今後はより一層若者をどう引き込むかを重点的に考える。このままでは人口減少はさらに進行する可能性があるのではないだろうか。

* 住み続けてもらう＝地域に愛着をもって興味をもってもらう

■ 高齢化による「孤独感」や「閉塞感」について

- ・行事などに参加はしてみたいが、交通手段の確保の難しさ。
- ・コミュニケーションが減ることは人との付き合い・地域との結びつきも薄くなる。
- ・コロナ禍により外出機会の減少による「孤独感」や「閉塞感」を感じる人が増えた。
- ・「昔のようなお茶飲みに歩かなくなったため楽しみが減り寂しくなった。」

■ 地域と住民の役割のあり方について

- ・仕事をしている世代からは「地域での役割が多すぎる」と多くの声がある。
- ・家・仕事に加え地域での役割もあり負担が大きい。
- ・高齢世帯が多く地域の役割分担ローテーションが早く来る。

■ 若い世代・子育て世代の環境づくりについて

- ・若者世代や子育て世代が参加しやすい行事や講座の要望
- ・「若者の発想を取り入れた集まれる場所や参加しやすいスポーツを増やしてほしい」

(3) 重点的に取り組むべきテーマ

①環境整備対策

- ・高齢化により草刈りや山林の維持管理が難しくなっているため。
- ・暗い箇所や草、山林が荒れることによりゴミのポイ捨てや山への不法投棄を増やす要因になるため。
- ・危険個所の対策（街灯、冬季路面凍結、見通し、等）

②高齢化による「孤独感」「閉塞感」を減らす対策

- ・車の免許返納により自由に行動が出来ず、出不精になりがちになってしまうため。
 - ・集まりの場所まで遠く、歩きでは時間もかかり体力的に厳しい。
- *上記のことから家に引きこもることも多く、人との関りが薄れてしまう。

③若い世代・子育て世代の環境づくり対策

- ・若い世代や子育て世代が参加しやすい事業・講座など話し合いの場を設けることの検討。
- ・若い世代の事業が欲しいと要望あり。

④地域と住民の役割づくり対策

- ・働き世代より、家・仕事に加え地域での役割もあり負担が大きい。若い世代への負担増。
- ・各行政区での見直しが求められている。

⑤地域の魅力活用対策

- ・新田地区の景観自然を生かす
- ・史跡や神社仏閣など歴史を生かす
- ・魅力を見つけその発信

(4) アンケートに寄せられた自由記載の一部

- ・小さな子どもから大人までの活動がない。主体は大人、特に高齢者の活動が多い。10代～30代までの的を絞った活動があっても良い。
- ・私は勤めており休日は日曜・祭日です。歩こう会とか女性講座とかやってみたいなど思っても平日では参加ができません。
- ・自分は色々と参加しているが、他の部落で参加が少ないと思います。参加出来るように協力する部落が多くなるように声かけをしてください。
- ・市民運動会を含め選手集めに苦労しています。
- ・高齢者が集まる場所が近くにあると良いと思います。
- ・年齢的にも移動に体力がついていかない。

2、第二次計画実施状況から

(1)第二次計画のあらまし *5～6ページ図1を参照

(2)第二次計画の取り組み状況

平成31年3月で5年計画が終了することに伴い、「第二次新田地域づくり計画」の策定に向け、地域づくり部会役員が主体となって、第一次計画の取り組みの成果や講評の検討を行った。コミュニティだけでは困難で実行できずにいた内容が多くあり、見直しと自分達で目標を立てて事業を組み立てられるようになり、令和元年～令和5年の第二次計画が開始となる。

(3)第二次計画に取り組んでの成果と課題

①コミュニティの充実

・地域の安全

危険箇所マップの作成予定から、実質各避難場所として行政区のセンターを記載したマップ作成となった。また、調査した危険箇所の見直しが出来ておらず今後の活用方法を検討する。

・生涯学習の充実

新田の神社仏閣史跡調査を行いマップを作成し関係者と希望者へ配布。
活用方法を検討する。

②魅力ある新田のPR

・新田ブランドの確立

新田地区イメージキャラクター「にったん」を誕生。公民館の広報紙・会議資料やにったんを使用したい方への貸し出しを実施。さらなる活用方法を検討する。

・植栽等推進活動

花いっぱい運動（花苗配布・花壇鑑賞会）の実施。花苗の値上がりや種類要望に伴い継続について検討する。

③ふるさと再生

・ゴミのない地域

鳥居の看板の継続と新たにインパクトを加え「目」を使ったラミネート加工のポスターを製作し、希望行政区へ配布後一時的な効果は見られた。しかし、ポイ捨ては無くならないため活動内容を検討する。

・新田地区で伝わってきた古き良き行事の継承

計画にあったが実施までいけなかった。内容の見直しを検討する。

3、成果と課題

第一次計画より掲げた3点のテーマを推進するために、班編成を行い各班テーマに沿って話し合いを重ねながら、事業に取り組んできました。

しかし、令和2年より新型コロナウイルス感染症の流行により、令和2年～令和4年まで満足に事業計画を進めることが出来ず、第2次の計画実行は令和元年と令和5年が主だったの実施と苦しい年月となりましたが、交流ができない期間では「新田地区地域づくりアンケート」を実施、1,034件（毎戸配布）にアンケート用紙を配布し回収数534件・回収率51.6% 半数の回収率があった。

アンケート調査により地域住民の暮らしの中での困りごとや地域にどれほど住民が興味があるのか知ることができた。困りごとについて、新田地区だけではなく日本全体の問題でもあり、人任せではなく、一人ひとりが地域で何を行って行きたいか意識をもっていなければ、何も変わらない。



6月 花苗配布

7月 花壇鑑賞会



第3章 第三次計画の基本方針

1、スローガン

「みんなで考え住みよい新田を創ろう!!」

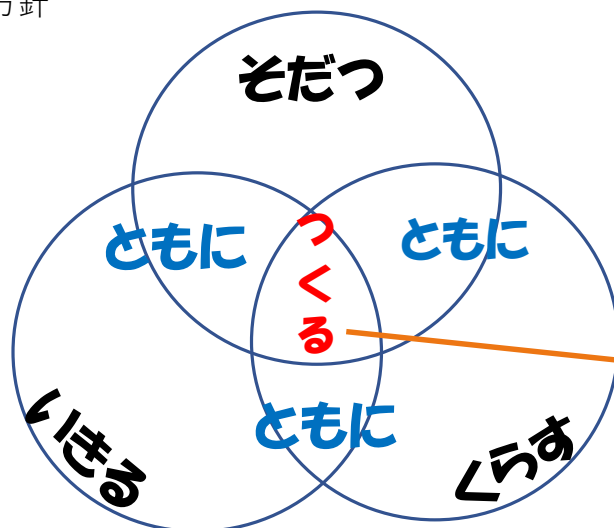
2、計画の目標

令和6年3月で「第二次新田地域づくり計画」の5年計画が終了し、地域づくり計画も10年の経過を迎えることに伴い、「第三次新田地域づくり計画」の策定に向け、策定委員には新たに各層から選出した。令和2年度に実施した「新田地区地域づくりアンケート」の結果や委員の意見を取り入れながら今までの成果や評価の検討し、活かせるものは活かし、新しい内容と入れ替えるなど行った。

3、計画期間

令和6年4月～令和10年3月

4、基本方針



地域活性化

(1) 基本テーマ

① そだつ

生きる力と想像力を養い自ら学び人が「そだつ」地域づくり

② いきる

安全安心な暮らしが支える笑顔で健康に「いきる」地域づくり

③ くらす

自然と生活環境が調和し人が快適に「くらす」地域づくり



(2) 事業の進め方

第三次新田地域づくり計画に基づき事業を実施します。年度ごとに実施状況の把握し、事業目的が達成されているか確認し、次年度以降の事業に活かしていきます。また、計画期間満了時には、計画の総合的な評価を行い、新たな課題を抽出など含め、次の地域づくり計画に反映させていきます。

第三次 新田地域づくり計画～みんなで考え住みよい新田を創ろう!!～ 行動計画

計画期間: 令和6年4月～令和10年3月

分野	目標 (テーマ)	事業名	具体的な内容	実施スケジュール				
				6年	7年	8年	9年	10年
そだつ	生きる力と想像力を養い 自ら学び人が「そだつ」 地域づくり	神社・仏閣・史跡マップ活用事業	マップを生かした新田読本の作成	○				→
			行政区毎の散策コースを設定する		○			→
		子ども達の居場所づくり事業	夏休みの公民館解放「新田寺子屋」の実施			○		→
		いきがづくり事業	ニュースポーツ（ボッチャ・モルック等）の体験 各行政区への出前講座		○			→
		新田いきいき事業	「にったん」の活用（着ぐるみ・のぼり・パネル等作成）	○				→
			「夏祭り」に代わる市民参加型「にったまつり」の開催		○			→
		伝統芸能の継承支援事業	伝統芸能の参観で支援。動画の作成と紹介			○		→
			新田の歳時記（正月・盆の行事食学）の作成			○		→
いきる	安全安心な暮らしが支える 笑顔で健康に「いきる」 地域づくり	防災・安全関係事業 （パトロール・危険箇所・空き家）	防災訓練、危険箇所マップ作り、パトロールの継続	○				→
		高齢者・困りごと支援事業	買い物支援	○				→
		食文化の継続事業	食文化講座（みそづくり、漬物、食の安全）		○			→
		地域の魅力事業	新田の自然の魅力再発掘（伊豆沼八景・漁師体験・ガイド育成等）	○				→
くらす	自然と生活環境が調和し 人が快適に「くらす」 地域づくり	新田のクリーン推進事業	花いっぱい運動活動 清掃活動	○				→
		生活支援事業	ゴミのポイ捨て禁止看板 見廻り活動推進事業（高齢者宅・地域危険箇所発見）		○			→
		自然事業	バードウォッチング 写真コンテスト 生き物調査		○			→
		啓発事業	「にったん」の積極活用 動画製作（はっと作り、柳生心眼流 等）		○			→

資料編

資料 1 第三次「新田地域づくり計画」策定委員名簿

1	策定委員長 (地域づくり部会部会長)	及川 宣和
2	神社仏閣史跡調査委員	相澤 清
3	伊豆沼農産 (新田あるもの探しの会)	佐藤 裕美
4	伊豆沼読書会	及川 俊弘
5	伊豆沼読書会	岩松 二夫
6	伊豆沼読書会	後藤 和江
7	イメージキャラクター審査員長	及川 寿美子
8	イメージキャラクター審査員	伊藤 裕麻
9	女性教養講座運営委員	伊藤 こずえ
10	地域づくり部会役員	千葉 芳樹
11	地域づくり部会役員	高橋 充
12	地域づくり部会副部会長	小林 富雄
13	体育部会部会長	星 輝
14	文化部会部会長	石川 茂男
15	事務局長	大場 勘市
16	事務局	伊藤 まつえ
17	事務局	及川 更
18	事務局	星 沙織

資料2 計画策定経過

7月11日（火） 第1回 地域づくり計画策定委員会

- 委嘱状の交付
- 見直しについて説明・今後の進め方方法について
- 第二次地域づくり計画の進捗状況の確認
- 各班リーダーの決定



9月6日（水） 第2回 地域づくり計画策定委員会

- 事業内容の整理
- 第二次地域づくり計画書の内容を基に班ごとのテーマに沿って計画内容の話し合い
- 話し合った内容を発表



12月12日（火） 第3回 地域づくり計画策定委員会

- 第三次地域づくり計画案の作成
- 9月に話し合った計画内容の具体的な取組みについて
実施しやすいように詳しく話し合う



2月6日（火） 第4回 地域づくり計画策定委員会

- 第三次地域づくり計画書の確認
- 前回話し合った内容をまとめ作成した行動計画書の見直し



3月6日（水） 第5回 地域づくり計画策定委員会

- 第三次地域づくり計画書の最終確認
- 冊子化、チラシ化した完成形を再確認



6月 市民運動会



8月 夏祭り（提灯展示）



11月 市民文化祭



12月 イルミネーション



新田地区コミュニティ推進協議会
(新田地区地域づくり計画策定委員会)

令和5年度3月策定

【問い合わせ】
登米市新田公民館
〒989-4601
宮城県登米市迫町新田字小友65
Tel : 0220-28-2037
Fax : 0220-28-2110
e-mail : nitta@iaa.itkeeper.ne.jp